

ずいぶんご無沙汰してしまいました。気が付くと、既に開館してから半年が過ぎ、10万人目のお客様をお迎えすることができました。

その間、開館準備期間中は、資料の調査、借用、複製、諸手続きに追われ、「写真だ、グラフィックだ、映像だ、文章はまだか。運営計画に情報システムは大丈夫か。」と驚異的なスケジュールに追われ、まさに東奔西走しておりました。

開館してからも、植樹祭（天皇皇后両陛下をお迎えしました。）対応、特別展や企画展の準備、来館者や視察者の対応など、休む間もなく日々が過ぎて行きました。

特に、現在開催中の日韓交流展－それでも騎馬文化はやってきた－の準備は大変でした（楽しかったけど）。全てが初めてのことばかりだし、いつまで経ってもハングルはヒアリングできないし（でも、食堂で注文はできるようになった。）、韓国の人は怒ってるのかそうでないのか解りにくいし、韓国のカメラマン（図録用の撮影をお願いした）は言うこと聞かないし・・・。

しかし、多くの人々の協力を受けて、無事開催にこぎつけました。開催前日には台風が迫り（22号）、開会式や翌日のシンポジウムの出席者が宮崎に来ることができるのか、お客さんは来るのか、ギリギリまで心配していました。何とか台風は逸れ（関西・関東方面の方々は大変だったでしょう）、全て予定どおり、いやそれ以上の成果を上げられたと思います（まだ、始まったばかりだけど）。



前回の日記からこの一年にあったこと（執筆をサボっていた訳ではないのですが、）

- ・腰を痛めた（北郷、東に加え、企画管理の加塩までも）
- ・新人がきた（考古専攻で関西弁の二宮、埋文で一緒だったトリちゃん－鳥原－）
- ・台風もたくさん来た（被災の皆様にお見舞い申し上げます）
- ・NPO法人（宮崎文化本舗）とタッグを組んだ
- ・ボランティア組織（解説・案内）が動き出した
- ・韓国に知り合いが増えた（特に国立金海博物館はスタッフが若く、パワーに圧倒されます。彼らはあまり酒飲まないけど・・・）

とにかく、多忙な毎日でした（今も変わらないけど）。新しいものを創り出す作業は、難しいこともあるし大変だけど充実感があります。多くの研究者や関係者とも知り合いになりました。そして何にもまして、数多くの方々に博物館を訪れて頂いたことが最大の喜びです。時には厳しい御意見も頂いていますが、考古博は開館が完成ではなく、まさにスタートしたばかりです。日々成長していく博物館でありたいと願いつつ、次の企画の準備に取りかかります。

（文責：東）